

竹原 正人 議員（代表質問）

1 姉妹都市交流について

- (1) 水野市長は、先日、アメリカイリノイ州シャンバーグ市へ表敬訪問されたが、姉妹都市としての継続的な交流をどのように考えているのか。
- (2) 今年度から、小諸市と滑川市の職員交流会を実施しているが、交流会を実施した結果、どう職員の意識改革や変化につながっていくと考えているのか。
- (3) 今後も毎年定期的に若手職員だけで交流会を開催していくのか。
- (4) 那須塩原市や、豊頃町との姉妹都市交流も、ビジネス分野や観光分野の他、いろんな交流のあり方があると考えますが、幅広い分野で交流ができないか。
- (5) 国内外問わず、今後、新たな姉妹都市を締結する思いがあるのか見解を伺う。

2 DXの推進について

- (1) 市内各事業所に「滑川市中小企業等DX支援・DXアドバイザー育成事業」に係る協力依頼をされたが、問い合わせ等どのような手応えがあったのか。
- (2) 8月にはDXアドバイザー育成事業説明会が開催されたが、関心のある企業を多く募れたのか。実績と事業内容について伺う。
- (3) 今後、更なるDXの推進のため、新規事業をどのように考えているのか。

3 公共施設使用料等の改正について

- (1) 今定例会で、公共施設の利用料等の改正について提案されている。対象施設を限定した理由と、施設管理者等と話し合いの場を設けて、使用料金の妥当性を協議したのか。経緯を伺う。

- (2) 各施設の利用時間区分に対する時間帯も各施設ごとにバラバラだが、統一するなどの意見は出なかったのか。
- (3) 今回の条例改正の理由は、昨今の燃料費の高騰による電気料金の値上げ等に伴う施設の適正な運用と利用者の利便性の向上を図るためとあるが、施設管理者の適正な運用と利便性の向上は図られていないのではないか。

中川 勲 議員（代表質問）

1 災害対策について

- (1) 能登半島地震が発生して8か月経過したが、今後滑川市としてどういった対策を行うのか。
- (2) 富山県防災会議が43項目にわたり被害想定調査をするとのことであるが、具体的な内容を問う。
- (3) 最近全国で大雨による被害が発生しているが、本市では対策は考えているのか。
- (4) 台風10号の発生により、テレビでは強く注意を呼びかけていたが、滑川市として対応をしていたのか。

2 小中学校におけるスポーツ活動について

- (1) 最近部活動中に重大な事故が起きている。
 - ア 生徒の動きを確認して安全対策をしているのか。
 - イ 部活動の指導を外部に委託している所もあると聞くが安全対策について話し合っているのか。
- (2) 熱中症対策について
 - ア 練習中はどうしているのか。
 - イ 大会ではどうしているのか。

3 人口対策について

- (1) 人口戦略会議が将来消滅の可能性がある自治体名を公表しているがどう思うか。
- (2) 市民のウェルビーイングを追求することが人口減少対策になるとのことであるが、対策はあるのか。

4 上市町の「0円空家バンク制度」 について

- (1) 予想以上に効果があるとのことであるが調査されたか。
- (2) 滑川市でも空き家が多いが考えられないか。

5 上水道事業について

- (1) 県内では2046年に赤字にならないように平均48%値上げが必要とのことだが、滑川市はどうか。
- (2) 水道本管の耐震化は進んでいるのか。

安達 真隆 議員（一般質問）

1 児童・生徒の校外学習について

- (1) 過去に行われていた立山登山は、なぜ現在行われていないか伺う。
- (2) 立山登山を体験することにより、どのような効果が得られると思うか。
- (3) 滑川市では過去行われていた立山登山を再開する予定はないのか。

2 滑川市の医療について

- (1) 診療所開業等支援事業について
 - ア 現在までの具体的な取組状況と進捗について伺う。
 - イ 各大学病院などに情報提供を行ったのか。
 - ウ 今年度の市長の大きな施策の一つだが、改めて意気込みを問う。
- (2) 厚生連滑川病院運営補助事業費として救急医療運営補助 4,000 万円、小児科診療運営補助 1,000 万円を計上している。補助金の具体的な用途を問う。
- (3) 個人の産婦人科医師が厚生連滑川病院内の一角を借り、運営できるように提案することはどうか。
- (4) 今後、より地方の医師不足、医療機関の減少が見込まれる。新たに市として課題を乗り越えるための施策はあるか。

古沢 利之 議員（一般質問）

1 地域防災について

- (1) 地域防災計画の見直しについて時期は未定のようなが、能登半島地震による反省と教訓も出されている。県では今年度内の見直しも検討しているようだ。本市も避難所の開設、運営や備蓄品の在り方など可能なところから見直しを進めるべきではないか。
- (2) 先日のNHKの番組でも、先の地震の解明が進んでいる旨が放映されていた。とりわけ、活断層の連動、軟弱地盤の影響などは今後の調査も求められるが、計画への反映と住民への周知をどうするのか。
- (3) 8月31日付地元紙によると「地震の被害想定12事例」に拡大と報道されている。この受け止めを問う。

2 生活保護について

- (1) 多くの住民が目にするであろうホームページに記載されている内容について
 - ア 「生活保護の対象となるのは」について、「その利用し得る資産、能力及び扶養義務者の扶養、その他あらゆるものを活用してもなお、生活ができないときに生活保護の対象」とある。扶養義務者の扶養は「あらゆるもの」に該当するのか。扶養義務者の扶養は保護の「要件」か。
 - イ よく引用される「扶養義務者の扶養は、保護に優先される」とはどういうことを意味するか。
 - ウ 「扶養照会」はどう対応しているか。
- (2) 窓口で渡す「しおり」について、最低限度の生活に必要な資産以外は処分するよう求めているが、そのとおりか。住居も処分対象か。

岩城 晶巳 議員（一般質問）

1 姉妹都市交流について

- ・ 市長は8月26日より、3泊5日の日程でアメリカの姉妹都市シャンバーク市に訪問した。これを機に今までのように単発的に訪問をし、また来てもらってそれで終わるのではなく、継続性を持った交流が大事だと考える。これからはグローバル化の時代であり、子どもたちの目を海外に向けさせることが今の大人の責任である。
 - ア 今回訪問した成果を問う。
 - イ 例えば毎年オンライン子ども会議などをして子どもたちの視野を広げて、大きく育てていく取組をしてはどうか。

2 東福寺野自然公園について

- (1) パークゴルフ場、バーベキュー広場、SLハウスの最近の利用状況はどうなのか。
- (2) バーベキュー広場前の池の水質は大丈夫か。
- (3) 青雲閣について
 - ア 解体はいつから始めるのか。
 - イ 解体の間事務所はどうするのか。
- (4) パークゴルフ場、バーベキュー広場、入場口、駐車場など全体の配置を考え直さなければと思うがどうか。

3 子どもたちの安心・安全について

- (1) 毎年夏休み中に通学路の危険箇所点検をしているが今年も実施したのか。
- (2) 一般県道138号線（栗山追分線）について、児童の登下校時の安全対策として魚津側に緑色のカラー塗装をして児童の安全を確保することを検討していると聞いているが、踏切より海側は道路と田の落差が1メートル以上あり危険なため、防護柵が必要と考える。見解を問う。

(3) この4月、群馬県高崎市で警報機や遮断機がない「第4種踏切」で小学4年生の児童が電車にはねられ亡くなるという痛ましい事故が起きている。

ア 滑川市内に「第4種踏切」はあるのか。

イ あれば子どもたちに注意喚起をせねばならないと思うがどうか。

4 能登半島地震の教訓から

(1) 避難所として利用される学校の体育館の冷暖房設備をどう考えているのか。

(2) 避難所のキーボックスの設置はいつになるのか。学校の入口に付けるとのことだが体育館はどうするのか。

(3) 災害物資の備蓄倉庫が市西部に偏り過ぎていると提言したが検討したのか。

(4) 給水車は、11月に納入されるとのことだが間違いはないか。また管理はどうなるのか。

(5) 庁舎敷地内に手動式ポンプを設置するとのことだが場所は決めているのか。

原 明 議員（一般質問）

1 ふるさと龍宮まつりについて

- (1) 今年のふるさと龍宮まつりの新川古代神街流しへの参加者、ステージイベントや海上花火大会に訪れた市内外の見物客の数は、昨年と比べどのような状況であったか伺う。
- (2) 昨年は駐車場不足、滑川駅の混雑、幹線道路の渋滞など多くの改善点が指摘された。今年の運営はどうであったか。また来年の開催に向けた改善点を伺う。

2 漁業の振興について

- (1) 9月からベニズワイガニ漁が解禁となったが、地震で被害が出たカニかごの整備は間にあったのか、また滑川市のベニズワイガニ漁への地震の影響はどうか。
- (2) 浜の活力再生プランの改定作業に入るところであると思うが、実績と評価を伺う。
- (3) 富山県は今年度、海や漁村の魅力を生かして地域振興につなげる「海業」を推進している。市の取組について伺う。
- (4) 滑川蒲鉾の施設の利活用を今後どう進めていくのか伺う。

3 姉妹都市提携や友好提携に向けた取組について

- ・ ベトナムの都市ホイアンとの姉妹都市提携や友好提携に向けた、情報収集や可能性調査を進めてはどうか。見解を伺う。

水橋 真治 議員（一般質問）

1 現行の健康保険証からマイナ保険証への移行について

- (1) 現行の保険証は、本年12月をもって新規発行されなくなるが、マイナ保険証を保有していない住民には、資格確認書が交付される。資格確認書と現行の健康保険証との違いは何か。
- (2) 資格確認書の交付には、住民側の申請は必要か。また、いつ頃、どのような方法で交付が行われるのか。
- (3) 本市におけるマイナ保険証の利用件数と利用率は。
- (4) 本市において、資格確認書の仕組みとその交付方法、医療機関受診は問題なくできることなどは、市民に周知されているのか。「マイナ保険証の義務化」と誤解を生むような広報活動は行っていないか。

2 太陽光発電の問題について

- (1) 国及び県、本市の太陽光発電の件数や発電量の状況と推移はどうか。特にメガソーラーと言われる大規模太陽光発電の現状はどうなっているのか。
- (2) 太陽光パネル設置は、発電量の変動が激しく、バックアップ電源や蓄電設備、送電線網の整備などで実際には火力発電や原子力発電などより総合的なコストは割高となるということを理解しているか。
- (3) 再生可能エネルギーの固定価格買取制度で、太陽光発電等の再生可能エネルギーは、今後の普及によりさらに負担が増えるであろうことを認識しているか。
- (4) 将来的に膨大な量の太陽光発電パネルが処分されることとなるが、有害な物質も多く含まれており、適切な廃棄・リサイクルを行わないと不法投棄の温床となり、公害の原因ともなることを理解しているか。

- (5) 全国的に太陽光発電の開発で、住民とのトラブルが多発しているが、本市においても太陽光発電の乱開発を規制し、災害を防ぎ、自然や景観、生活環境を守るための条例の制定はできないか。

3 学校教育の充実について

- (1) 市内各小中学校では、2学期のスタートに当たり、児童・生徒にどのようなことに気を付けて指導をされたのか。
- (2) 児童・生徒の生命の安全を守るために、教員がどのような指導をされるのか。
- (3) 公立学校共済組合の調査結果によれば、ここ数年間連続で「事務的な業務量」が教員のストレスの原因の1位となっている。本市の小中学校においては、公的機関から年間何件の書類が届くのか。それによって何人の教員が何時間拘束されるのか。
- (4) 県と連携して無駄な書類仕事を削減していくことはできないのか。

高川 正樹 議員（一般質問）

1 物価高騰等に対する影響について

- (1) 予算要求時に比べて、現在、事業を行う場合には物価高騰等の影響が出ていると思われる。令和6年度当初予算にあげた事業は順調に進んでいるか。
- (2) 入札が必要となる大きな事業や、例年行っている委託事業等に影響が出ているのではないか。
- (3) 10月には富山県の最低賃金が、時間額で50円の増額となり998円となることで、今後取り組む事業に影響が出るのではないか。

2 安全・安心について

- (1) 今定例会で予算が計上されている積雪状況観測システムとは、どのようなものなのか。
- (2) 市内4か所の設置場所はどこになるのか。
- (3) 以前に、現場に行かなくても確認できるライブカメラの設置について質問したが、近年のゲリラ豪雨等に対する河川の増水などが把握できるライブカメラとライブカメラから確認できる位置に、水位レベルがわかるようなものをあわせて整備できないか。
- (4) カメラ搭載型ドローンの活用状況はどうなっているか。

3 総合防災訓練について

- (1) 10月27日に、中加積地区・山加積地区を中心に南部小学校をメイン会場として行う総合防災訓練は、どのような内容となっているか。
- (2) 次年度以降の開催地区はどの時点で決定するのか。

4 プラスチック資源の一括回収について

- (1) 対象となる浜加積地区では、希望する町内会に説明会が開催されたとのことだが、いくつの町内会で説明会を行ったのか。
- (2) 令和8年度から市内全域での本格実施に向けて、来年度、市内全地区での説明会を実施する予定であるとのことだが、今回同様、希望する町内会単位となるのか。
- (3) 富山地区広域圏内の富山市では令和6年4月からプラスチック資源の一括回収が始まっているが、実証実験も含めて、先行事例として参考としているのか。

大浦 豊貴 議員（一般質問）

1 東部山麓道路上大浦から蓑輪及び蓑輪地内の整備について

- ・ 富山県では、朝日町から富山市大沢野地域まで各市や町の山間部にあ
る観光拠点の発展につなげるべく東部山麓道路の整備促進に努めている
ところであり、滑川市では上大浦から蓑輪地内までの約2.5キロメートル
の区間が整備中である。また、本市の都市計画では、「県東部の主要な観
光拠点を結ぶ周遊性の高い観光ルートである東部山麓道路を軸として、
中心市街地と東部山麓道路を結ぶ道路などの整備を進め、市内外の広域
交流を促進する」ことが基本方針として示されており、今年度において
も富山県へ滑川市の重点事業として継続要望された。富山県や滑川市の
計画や目的、そのことに対する見解、進捗等について問う。
 - ア 平成26年度から整備が進められてきた主要地方道宇奈月大沢野線の
魚津市袋一石垣新の区間が令和3年に完成している。報道によれば宇
奈月温泉へのアクセス向上と、通勤時の交通渋滞緩和や歩行者の安全
確保が期待され、総事業費は約16億円であったとのことである。上大
浦から蓑輪地内道路整備にかかる着工から現在までの整備期間、事業
費、完成までの総事業費見込み、完成時期について問う。
 - イ 中心市街地と東部山麓道路を結ぶ道路整備について、整備の進捗や
整備計画について説明を求める。また、目的や計画等、富山県と滑川
市・関係各所は共有できているか問う。
 - ウ 道路整備が進捗するなかで、蓑輪地内や蓑輪地内に有する公共スト
ック等の将来イメージを問う。

2 指定校変更許可基準の変更による 対応について

- (1) 従来の就学指定校変更許可基準に「通学に特別な配慮が必要な場合」
を含めることとし、個別の相談により指定校の変更の対応が図られてい
る。令和6年度の相談件数、並びに指定校が変更された件数を問う。
- (2) 自治会や町内会から指定校変更に対する指摘等の有無について問う。

3 教育委員会について

- 平成30年3月定例会において小規模化する市内小学校への一般質問を行い、統合を含めた規模適正化・適正配置を検討する組織の立ち上げが必要ではないかと提案した。当時の答弁は、「統廃合は考えておらず、組織の立ち上げも考えていない」とされた。後日開催された教育委員会3月定例会での報告事項の中で、市議会3月定例会の質問事項等についての意見では、委員より「教育にはお金がかかる。市の財政を圧迫しない限りは、統廃合は必要ない」「小規模校になれば個別指導に近づく。結局は費用対効果、市の財政が許す限り小規模校の存続を考えるべき」「学校がつぶれたらコミュニティがなくなる。新しい人をどう呼び込むのかを考えるのが先で、学校をなくす、統合するという議論が先に来るべき問題ではない」等の意見があった。この定例教育委員会を含め教育委員会において、その後様々な意見等があったことは、会議録より確認したが、これらの意見に対する見解や説明を求める。
 - ア 「財政を圧迫しない限り」や「財政が許す限り」等の財政面に関し総合的に判断できる機関であるのか。また、学校がなくなることによるコミュニティの消失の見解について問う。また、統廃合より先にするべき議論の有無について説明を求める。
 - イ 統合を含めた規模適正化・適正配置を検討する組織の立ち上げに対する教育委員会の現在の見解を問う。

4 子ども医療費助成について

- (1) 報道によると8月28日に開催された、「ワンチームとやま」連携推進本部会議において、県から2025年度、子どもの医療費助成対象を、従来の未就学児から小学生までに拡大する方針が示された。また、これまで県が助成してきた未就学児のインフルエンザの予防接種は、負担を市町村に移すこととし、これにより市町村の支出は1億4千万円増えるが、県が医療費拡充分の6億2千万円を負担するため、差し引きで歳出は4億8千万円減る見通しだとした。本市の歳出に対する負担軽減額はどうか。

- (2) 本市から県への子ども医療費助成制度の拡充についての要望の趣旨は、「各市町村が独自に制度を運用しているため、対象児童の年齢や一部負担金の額等、市町村の財政力等により対応が異なることや、少子化対策・子育て支援の一環として独自に実施する制度拡充により、かえって自治体間の競争を煽る結果となっており、財政負担の拡大と制度の複雑化も看過できない状況である」ことである。こうしたことから、県への要望は、医療費助成制度に係る財政支援を早期に18歳まで拡充することや、全国一律の子ども医療費助成制度の創設について国等へ働きかけることである。今回の県の方針に対する見解について問う。

吉森 真人 議員（一般質問）

1 地域おこし協力隊について

- ・ 本市が地域おこし協力隊を受入れてから半年以上が過ぎたが活躍具合等現状を問う。
 - ア どのような人材を求めて募集したのか。募集要項等を問う。
 - イ 任期満了までにどのような成果をもたらして欲しいのか、また、目標などは定めているのか。
 - ウ これまでの活動内容と実績を問う。
 - エ 任期満了後は、どのような活動をして欲しいのか、本市としての考えを問う。
 - オ 今後も募集を続ける予定はあるのか。

2 夏休みに行った子どもたちへの事業について

- (1) なめりかわ未来学校サマースクールについて
 - ア 各小中学校の参加人数を問う。また、そのうち何名が昨年も参加されていたのか。
 - イ 高校生・大学生の募集方法を問う。
 - ウ 参加者の感想はどうだったのか。
 - エ 実施内容は、SLハウスでの宿泊以外は昨年と変わらないようにも思えたが、実際はどうだったのか。
 - オ 9月に子どもサミットで発表を行うことになっているが、いつどのように行うのか。
 - カ 来年度以降の開催予定を問う。
- (2) ふれあいのバス派遣事業について
 - ア 応募総数及び各小学校の参加者は、どのようなものだったのか。
 - イ これまでは、ホームステイでの宿泊だったが、今回は、ホテルでの宿泊であった。ホームステイは、お互いに負担もあると思うが、交流事業としてはいい体験だと思う。ホームステイを行わなかった理由を問う。
 - ウ 昨年、豊頃町の子どもたちが来た際は、滑川市に2泊したのち、東京でも2泊して4泊5日の派遣事業としている。そこまでとは言わないが、豊頃町以外の北海道の雄大さを体験する内容も盛り込んではどうか。

エ 手配した帰りの航空券の日付が間違っており、帯広空港～羽田空港～富山空港の予定が、貸切バス～新千歳空港～新潟空港～貸切バスとなり、3時間ほど遅れて帰ってきた。間違った原因と責任の所在はどこにあるのか問う。

オ 追加費用はどれくらいかかり、次回以降の対策はどのように考えているのか。

3 医療について

(1) 医療費の助成について

ア 県は2025年度、子どもの入院や通院にかかる医療費の助成対象を従来の未就学児から小学生までに拡大し、かつ事務負担も軽減されることとなった。ただし、県が助成してきた未就学児のインフルエンザの予防接種は、負担を市に移すとなっている。本市は、もともと高校生及び18歳の年度末までの医療費を助成しているが、この制度が開始されると年間の負担軽減額は、どれくらいなのか問う。

イ 新田八朗知事からは、「浮いた財源を生かし、地域の実情に応じた新たな子ども・子育て施策を展開してほしい」とのコメントがあったが、本市は、新たな子ども・子育て施策をどう考えているのか。

(2) HPVワクチンの接種について

ア ワクチン接種率は、定期接種、キャッチアップ接種別にどう推移しているのか問う。

イ 安全性の周知は、徹底されているのか。

ウ 全国平均、県平均より接種率は、低く推移しているが、改善方法は、どのように考え行っているのか。

エ キャッチアップ接種は、本年度が最後の年である。9月末までに1回目を接種しないと年度内に3回接種することができない。再度、周知して多くの方が接種できるように促すべきと考えるが、本市の見解を問う。

オ 男性の有効性も周知していき、本市が男性の定期接種をいち早く助成していくべきと考えるが、見解を問う。

谷崎 潤一 議員（一般質問）

1 創業支援事業について

- (1) 創業支援事業補助金が、補助対象件数増加で補正予算が計上されているが、令和6年8月時点での、問合せ件数と実施件数を伺う。
- (2) 今までの問合せの中で、創業支援事業補助金の交付に至らなかった事案はあったのか伺う。
- (3) 創業支援事業補助金は旧町部対象であるが、今後、滑川市全体を対象とする検討はできないのか伺う。

2 公民連携事業について

- ・ 公民連携による旧町部エリア再生調査業務は旧町部の空き家や土地を活用したまちづくりを目指しているが、どのようなコンセプトでまちづくりを目指しているのか伺う。

3 健康寿命維持に繋がる支援について

- ・ 令和4年3月定例会で質問した、高齢者の滑川市総合体育館利用料金について、利用場所限定で70歳以上の無償化は検討できないのか再度伺う。

4 市内における通学路について

- (1) 毎年8月に実施されていた通学路点検を10月に変更した経緯を伺う。
- (2) 歩道における植樹のない植樹柵や、植樹による舗装の段差や破損に対する修繕は検討されているのか伺う。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 持続可能な農業について

- (1) 人・農地プランから地域計画へ移行し、令和7年3月末まで策定するよう国から指針がでており、7月末までに協議の場を設置することとなっているが進捗は順調か。
- (2) 近年、農業生産資材である肥料および飼料が高騰している。2024年産米の概算金が発表されたが、市の見解は。また、所得向上に向けたアイデアはあるか。
- (3) 給食において、地場産野菜使用割合の推移はどうか。また増加する取組はしているか。

2 今後の消防団について

- (1) 操法は、「消火活動における基礎的な動作をまとめたもの」、また「火災現場の最前線で安全に活動するために重要なもの」との声がある一方、「苛酷な練習を長期間するぐらいなら団員になるのは嫌だ」という声も聞かれる。市の操法大会についての運営および今後の展望について見解を問う。
- (2) 滑川市の消防団の力向上モデル事業の実績はあるか。担い手を増やすことも含め、活用方法のアイデアはあるか。
- (3) 毎年、決算特別委員会の審査結果では「消防団員の充足について、一層のPRを行うなど、団員の確保に努め、自治会・企業・団体等にも協力を呼びかけるとともに各分団の配置、並びに各地区の消防団員の定数の見直しを検討されたい」との意見を言っている。定数の見直しは検討されているか。

3 市民の憩いの場について

- (1) 滑川海浜公園の四阿解体費予算が100万円計上されている。解体までの経緯は。

- (2) 市内の公園に四阿はいくつあり、また、管理はしているのか。日差しを遮る機能もあるが今後の設置についてはどのように考えているのか。
- (3) 西部小学校と東部小学校の児童数を合計した場合、市内児童数の約48%を占める。同校区には緑地および公園が少ないように感じるが、市の見解はどうか。また新たな整備は考えていないか。